グアテマラ内政・外交(2009年6月)

平成21年7月
在グアテマラ日本国大使館

1. 概要

内政面では、ガンダラ内務大臣が国家文民警察(PNC)長官及び次官の交代を発表した(8日)ほか、通信インフラ住宅大臣が辞任した(16日)。政府は、若者向けの職業訓練プログラム(「グアテマラ若人」)及び公立学校内での治安対策強化プログラム(「安全な学校」)を開始した(10日及び11日)。

外交面では、コロン大統領がエルサルバドルの大統領就任式に出席した(1日)ほか、ニカラグアで開催された中米統合機構(SICA)首脳会合に出席した(29日)。ブラジルのルーラ大統領が当国を訪問し、ブラジルの方式を採り入れた当国における社会政策の視察等を行った(1日及び2日)。

2. 内政

(1) 国家文民警察(PNC)長官及び次官の交代

8日、ガンダラ内務大臣は、ブランコ国家文民警察(PNC)長官を内務省次官(コミュニティー支援担当)に任命する等のPNC長官及び次官の交代を発表した。ガンダラ内務大臣は記者会見で以下表明した。

(イ) マルレーネ・ブランコPNC長官に代わりポルフィリオ・ペレス・パニアグア元PNC警察署長(注:2002年にPNC退職)を、レンベル・ラリオスPNC次官に代わりロランド・メンドサ・ペレス元PNC作戦局次長(注:2001年にPNC退職)を各々任命した。

(ロ) ブランコ前PNC長官は、犯罪防止の政策・戦略を策定する新たな任務に相応しい能力を備えた人物である。また、新PNC長官及び次官は共に豊富な経験を有しており信頼が出来る人材である。今後、PNCがより一層効果的に活動することを期待する。

(ハ) 今次交代は過去3ヶ月間に亘り実施したPNCの内部評価に基づくもので、PNCの改善に必要と判断した結果である。

(2) 通信インフラ住宅大臣の交代

(イ) 16日、ルイス・アレホス通信インフラ住宅大臣は体調問題を理由にコロン大統領に辞表を提出し、同辞表は受理された(なお、辞任したルイス・アレホス前大臣は、アレホス国会議長及びグスタボ・アレホス大統領府秘書官(両名は兄弟)の従兄。)。プレンサ・リブレ紙のインタビュー記事でアレホス前大臣は、「数ヶ月前から辞任を考えていたが、昨日(15日)、コロン大統領に辞任を申し出て受け入れられた。」「過去20年間の企業家としての生活に戻りたいと考えた。自分は大統領のプログラムを支援するため最善を尽くしたが、残念ながら健康上の問題や家族の問題も生じ辞任することとなった。」等述べた。

(ロ)22日、ギジェルモ・カスティージョ前通信インフラ住宅省次官が通信インフラ住宅大臣に就任した。カスティージョ新大臣は民間セクターの出身で2008年から同省次官(財政担当)を務めていた。

(3) 政府による若者向け雇用・治安対策諸プログラムの発表

10日及び11日、政府は、学校を中退した若者に対する職業訓練プログラム(「グアテマラ若人」)及び公立学校内での治安対策強化を図るプログラム(「安全な学校」)の開始を発表する式典を行った。「グアテマラ若人(Guatemala Joven)」プログラムは教育省及び職業訓練庁(INTECAP)が共同で実施し、主に学校を中退した若者を対象に、木材加工、裁縫、コンピューター・メンテナンス、パン製造、調理等における職業訓練が行われる。「安全な学校(Escuelas Seguras)」プログラムは教育省及び内務省が共同で実施し、公立学校(初・中等課程)における教育環境改善のため、内務省管轄下の国家文民警察(PNC)と学校当局、PTA、地域住民との間の連携を図りつつ、治安や麻薬問題等のない安全な教育環境の整備が目指される。

(4) 最高裁判所長官の選出

24日、8ヶ月に亘り空席となっていた最高裁長官として、カルロス・チャコン判事が選出された。チャコン新最高裁長官の任期は本年10月13日まで。

(5) 野党新党首の選出

(イ)7日、野党愛国党(PP)の党大会で、同党新幹事長としてロクサーナ・バルデッティ議員(女性)が選出された。バルデッティ新幹事長は、「現在この国には(統治能力を有する)政府がない。我々がガバナビリティーを回復させるのである。」と宣言した。同党創設(2002年)者のオットー・ペレス・モリーナ前幹事長(元大統領候補)について、同党関係者は、「国内変革をもたらす最大の指導者」と評価した。

(ロ)19日、統一会派党(PU)は、アルスー・グアテマラ市長(元大統領)を新幹事長に選出した。フリッツ・ガルシア・ガジョン前幹事長(元大統領候補)を引き継いだアルスー新幹事長は、党员、企業家、メディアに対し、「党は今後、再生のプロセスを辿るべき」とし、「2011年の大統領選でPU党は重要な参加を果たすべきである」と述べた一方、自身の市長選再出馬については言及を避けた。

(6) ポルティージョ政権期の閣僚による公金横領問題

(イ)24日、検察庁は、ポルティージョ政権のマヌエル・マサ元財務大臣を、公共事業通信省から1億5,500万ケツツアルを横領した罪で第5刑事裁判所に起訴した。

(ロ)25日、第8刑事裁判所は、エドウアルド・アレバロ元国防大臣に対し、国防大臣期に1億2,000万ケツツアルの公金横領に関与した容疑で身柄を拘束する判決を下した。同元国防大臣に対しては、4,000万ケツツアルの保釈金の支払いによる自宅拘禁を認める判決が既に下されている。

たが、保釈金未払いにより上記判決が改めて下された。

(7) 新型インフルエンザ(H1N1)問題

(イ) 10日、国内における新型インフルエンザ感染状況に鑑み、教育省は国内の公立学校に対し休暇の前倒し(6月15日から)を指示した。

(ロ) 当国保健省は、6月26日までに当国で確認された新型インフルエンザ(H1N1)の感染者数が、計262名(死亡者は1名)に上った旨発表した(なお、5月末時点での当国における感染確認者数は合計12人)。

3. 治安情勢関連等

(1) 麻薬(プロイソ・エフェドリン)の押収

19日、太平洋岸プエルト・ケツァル港の税関において、インドから到着したコンテナ内から、990万錠のプロイソ・エフェドリン錠剤(覚醒剤への転用が可能)が発見、押収された。23日、国家文民警察は、アウロラ空港出口においてプロイソ・エフェドリンを所持していた男性1名を逮捕し、同錠剤23,000錠を押収した。ゴンザレス国家文民警察報道官は、相次ぐプロイソ・エフェドリンの押収により本年の押収量は累計18,733,460錠となった旨述べた。

(2) アルタベラパス県における地震の発生

14日午前8時18分頃、当国コバン市の西南西約30km付近を震源とするM4.8の地震が発生した。建物・ライフライン等への大きな被害は発生しなかったものの、崖からの落石によりキチェ県チカマン市において男性1人が死亡した。

4. 外交

(1) コロン大統領のエルサルバドル大統領就任式への出席

1日、コロン大統領はエルサルバドルのフネス大統領就任式へ出席した。同日、エルサルバドルの大統領就任式へ出席した中南米諸国大統領等は、当国国内情勢への懸念及びコロン大統領に対する支持を表明する宣言への署名を行った。

(2) コロン大統領の中米統合機構(SICA)首脳会合出席

29日、コロン大統領はニカラグアで開催されたSICA首脳会議に出席した。同首脳会談には、SICA諸国大統領及び首相に加え、カルデロン墨大統領、ラウル・カストロ・キューバ国家評議会議長、チャベス・ベネズエラ大統領、コレア・エクアドル大統領、モラレス・ボリビア大統領等も参加し、ホンジュラス情勢が中心に扱われた。同会合では、ホンジュラスにおけるデ・ファクト政府の孤立化や民主主義の改善回復のための必要な措置に関するSICA声明について合意した。

(3) ルーラ・ブラジル大統領の当国訪問

ブラジルのルーラ大統領は、1日に行われたエルサルバドル大統領就任式に出席した後、同日及び2日、当国を公式訪問し、コロン大統領との首脳会談、ブラジルで実施されたプログラムをモデルに当国政府が推進する貧困対策などの社会政策の現地視察等を行った。

(4) ホンジュラス情勢に関するグアテマラ政府表明

(イ) 28日にホンジュラスで発生したクーデターにつき、同日、グアテマラ外務省は、「グアテマラ政府は兄弟国ホンジュラスの民主的制度の断絶を強く非難し、本日午前テグシガルパで発生したクーデターを断固拒否することを表明する」等を内容とするコミュニケを発出した。

(ロ) 28日午後、コロン大統領は記者会見において、「我々はロベルト・ミチェレッティをホンジュラスの大統領とは承認していない。マルエル・セラヤ大統領が民主的に選出された大統領であり、今日ニカラグアで開催されるSICA首脳会議にセラヤ大統領を招請した。」等表明した。